

アクションプラン(平成26年度版)

N'2020Plan の 課 題			アクションプラン(H30年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
I. 建学の精神と二松学舎憲章												
1. 建学の精神	(1) 建学の精神とその現代的解釈の浸透	a. 建学の精神とその現代的解釈の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 松葉校長 長谷川校長 野田常任理事 谷口図書館長	総務・人事課 ◎広報課 ◎教務課 入試課 図書館 高校事務室	広報運営委員会	教職員、学生・生徒が本学建学の精神を理解し、帰属意識(母校愛)を持っている。	・浸透策の継続実施 ・中高生、一般向けの二松学舎史刊行を検討	・継続実施	・継続実施	・継続実施	・継続実施	
		(2) 創立者の知名度向上	a. 創立者三島中洲の知名度向上	◎五十嵐常任理事 小町理事	広報課	広報運営委員会	創立者三島中洲の知名度が、本学関係者以外にも広く伝わり、社会的な評価を得ている。	・各種メディアを活用した知名度アップの方策を検討 ・具体案の一部実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
2. 二松学舎憲章	(1) 二松学舎憲章の浸透	a. 二松学舎憲章の学内外への浸透策の検討・実施	◎五十嵐常任理事 野田常任理事	総務・人事課 ◎広報課 ◎大学改革推進課	広報運営委員会	「二松学舎憲章」が全てのステークホルダーに周知され、その理念の浸透が図られている。	・周知活動計画の一部実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	
3. 二松学舎史編纂事業と周年事業	(1) 編纂事業の推進と周年事業計画	a. 創立140周年記念事業	◎五十嵐常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎企画・財務課 広報課		創立140周年(H29)事業が成功裏に達成されている。	・記念事業準備委員会の設置 ・広報計画策定	・記念事業の具体計画策定	・記念事業の一部前倒し実施	・創立140周年 ・記念事業の実施	・記念事業の総括	
		b. 創立150周年を視野に入れた舎史編纂事業の推進	◎五十嵐常任理事 谷口図書館長	◎広報課 図書館	広報運営委員会	創立140周年(H29)での編纂事業の大綱発表を受け、舎史編纂所(仮称)が設置され、編纂事業がスタートしている。	・調査、資料収集の継続	・調査、資料収集の継続	・調査、資料収集の継続	・調査、資料収集の継続	・調査、資料収集の継続	
II. 大学・高校・中学の教育改革(共通)												
1. 各設置学校間の連携強化	(1) 中高大一貫校化の体制整備	a.中高大の連携強化 b.高大連携の実質化 c.両附属高で優秀な生徒の二松学舎大学への進学推奨 d.大学で両附属高からの優秀な学生受け入れ e.附属中・高を学生の教員養成実践の場として活用(学生による日常的な授業サポート等の実施) f.「4・4・4制」学制改革への対応	◎渡辺学長 山崎副学長 松葉校長 長谷川校長 野田常任理事	総務・人事課 企画・財務課 大学改革推進課 入試課 ◎教務課 ◎附属高校 ◎柏中高	全学政策会議 附属高校改革検討会議 校長室会議	学生・生徒募集に係る連携だけでなく、教育課程についても連携が図られ、中高大10年間の教育によって、長期ビジョンに掲げる人材を輩出している。 H30年度 大学入学生のうち内部進学者：両附属高校合わせ文学部70名、国際政治経済学部20名	・大学授業の高校生履修一部実施 ・柏中高と大学との連携方法検討 ・両附属高校による教育実習生受入拡充検討 ・両附属高校からの進学者受入方法の検討	・高大連携と結び付けた優秀な生徒の受入実施 ・学習ボランティア学生の派遣				
		(2) 施設・設備の共同利用	a.(九段キャンパス)大学施設の一部を附属高と共同利用 b.(柏キャンパス)大学の教室・施設を附属高・附属柏中高での授業や運動でも利用	◎野田常任理事 渡辺学長 松葉校長 長谷川校長	◎総務・人事課 柏事務課 ◎高校事務室	全学政策会議 附属高校改革検討会議 校長室会議	各設置学校間での施設・設備の共同利用に係るルールが策定され、効率的な利用が実現されている。	・附属柏高校の大学教室施設利用の継続実施 ・柏キャンパス共同利用ルールの策定	・継続実施 ・柏キャンパス共同利用ルールに基づいた利用の開始	・継続実施	・継続実施	・継続実施
III. 二松学舎大学・大学院の教育改革												
1. 大学(学部・大学院)のフレーム	(1) 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの浸透	a. 大学・大学院の理念・目標・ビジョンの学内外への浸透策の検討・実施	◎渡辺学長 山崎副学長	◎大学改革推進課 教務課 学生支援課		建学の精神を反映したカリキュラムにより、大学・大学院のビジョンに掲げる人材が輩出されている。	・理念・目標の再確認、推敲・統一 ・理念・目標の浸透方策検討 ・理念を勘案したカリキュラムの改正検討(自校教育等)	・浸透方策に基づく周知	・継続実施	・継続実施	・継続実施	
		(2) 規模拡大への取り組み	a. 新学部等の設置	◎渡辺学長 山崎副学長 野田常任理事			新学部等を設置し、学生を確保している。	・マーケティング調査結果に基づく検討 ・新学部等設置の可否判断	・申請、学生募集等準備	・申請及び届出 ・学生募集実施	・新学部開設 ・第二期学生募集 ・学生募集の効果検証・見直し	・新学部2年目 ・第三期学生募集 ・学生募集の効果検証・見直し
			b. 文学部の改革	◎渡辺学長 山崎副学長 江藤学部長 野田常任理事	◎大学改革推進課 ◎企画・財務課	理事会 常任理事会 全学政策会議 大学協議会 部局長会議 教授会	文学部が学生を確保し、十分な教育水準を維持している。	・学部改革の検討	・申請等準備(詳細検討、人事計画等)	・申請及び届出	・新学部開設	・新学部2年目
	c. 国際政治経済学部の改組検討	◎渡辺学長 山崎副学長 菅原学部長 野田常任理事			国際政治経済学部の教育研究水準が向上している。	・新カリキュラムの効果検証、確認	・効果検証、確認 ・複数学科へ移行の可否判断	新カリキュラム4年間の検証、確認	全体検証、改善	全体検証、改善		

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		d. 国際政治経済学研究所の充実	◎渡辺学長 山崎副学長 菅原研究科長	◎大学改革 推進課 入試課 教務課		修士課程収容定員を充足している。	・新カリキュラムの実施	・新カリキュラム完成年度	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
		e. 「在籍学生5,000人規模総合大学」へ向けた 取り組み	◎渡辺学長 野田常任理事	大学改革 推進課		上記「a」「b」「c」の状況等を見ながら、適宜 検討					
2. 大学のマネジメント(管理運営)											
◆ 教学マネジメント体制の充実・強化											
	A. カリキュラムの体系化(カリキュラムマップ、ナンバリングの導入等)	・カリキュラムマップの作成 ・ナンバリング制度の導入 ・その他	◎渡辺学長 山崎副学長		教務委員会 教授会	学生の主体的な学びに寄与するカリキュ ラムが整備され、国内外他大学との単位互換 が容易となる制度が整備されている。	・ナンバリング制度の 充実、改善	・ナンバリング制度の 充実、改善 ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し ・カリキュラムマップ、ナ ンバリング制度、科目 難易度の検証・改善	・効果検証、見直し ・カリキュラムマップ、ナ ンバリング制度、科目 難易度の検証・改善
	B. シラバスの充実・強化	・シラバス記載内容の見直し ・ルーブリック(評価基準)の確立 ・その他	◎渡辺学長 山崎副学長		教務委員会 教授会	シラバスの記載内容が統一・整備され、当 該科目の履修により修得できる知識・技能 が明示され、学生の主体的学習計画策定 の一助となっている。	・新シラバスの導入	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	C. 教育方法の改善・改革	・組織的FD活動の体系化と教科指導力の強化 ・授業方法改善 ・ICTの活用と学内ネットワークの見直し(無線LANの導入検討) ・CAP制度(年間履修上限単位制度)の全学的な導入 ・アクティブラーニングの推進 ・GPA制度の活用方法の検討 ・学修到達度調査・学修行動調査の導入 ・TA、SAの活用 ・図書館、ラーニングcommons等の施設機能充実 ・その他	◎渡辺学長 山崎副学長 野田常任理事 五井センター長 千葉理事	◎教務課 大学改革 推進課 情報センター	自己点検 評価運営 委員会等	PBL(Project Based Learning)、アクティブラー ニングなどの新しい教授方法が導入され、一 方向的な指導から、双方向の指導へと転 換している。また、学内ネットワークの見直 しに伴う無線LANネットワーク等が整備さ れ、ICTを活用した新たな授業が展開して いる。CAP制度・GPA・学修到達度調査・学 修行動調査の活用と、TA・SAの活用、施設 機能の充実等により、学生が主体的に学習 できる環境が整備され、「学士力」が高まっ ている。	・組織的FD活動の本格的 導入開始 ・学部教育における基礎 学力向上プログラム等 の導入 ・効果検証、見直し ・ボランティア活動の 単位化実施 ・ICT活用授業導入の 検討(FD)、一部実施。 ・ローカル無線LANの 一部導入。	・効果検証、見直し ・無線LANネットワーク 構築に向けた具体案 の検討	・効果検証、見直し ・全学的無線LANネット ワークの構築と検証	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	D. 組織的な連携	・大学院、学部間の連携 ・学部間の連携 ・他校(附属中学校、両附属高等学校)との連携	◎渡辺学長 山崎副学長			各設置学校長間の連携・協体制が確立 し、有機的かつ効率的な教育サービスが学 生・生徒等に提供されている。	・大学院、学部間の連携 方策検討 ・学部間の連携方策検討 ・高大連携内容の再確認	・大学院、学部間の連携 カリキュラム検討 ・学部間連携カリキュラム 検討 ・各学校長等による協議	・大学内各組織の連携 開始 ・中高大連携具体策の 検討	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	(1)教育方針の明確化	a. 大学全体の教育課程編成・実施方針、 学位授与方針の明確化	◎渡辺学長 山崎副学長	大学改革 推進課		カリキュラム、ディプロマポリシーが確立さ れ、育成する能力・知識・技術と授業科目 の内容との関連性が明示されている。	・新カリキュラムポリシー の策定・公表 ・新ディプロマポリシー の策定・公表				
	(2)学位論文審査 基準の明確化	a. 学位論文審査基準の策定	◎渡辺学長 山崎副学長			客観性、厳格性が確保されたディプロマポ リシーが定められ、基準に則り学位が授与 されている。	・新ディプロマポリシーの 策定・公表 ・学位論文審査基準の 策定				
	(3)教育研究情報の 集約、教育研究 成果の検証	a. 教育課程の適切性等検証体制の整備・効果的な運営 b. シラバスと授業との整合性検証体制の整備 c. IR(Institutional Research)機能の充実 ・教育成果検証体制整備、教育研究成果の一元管理	◎渡辺学長 山崎副学長	◎大学改革 推進課 ◎教務課		学内外への教育研究成果の公表、シラバ ス掲載内容の適切性に係る検証体制が構 築され、ステークホルダーに情報提供され ている。	・カリキュラムの適切性、 シラバスと授業の整合性 等の検証方策検討 ・教育研究成果の情報 集約方策検討	・適切性・整合性の検証 ・情報収集、公表	・検証結果による改善		
	(4)教員組織の整備	a. 学長の権限強化 b. 大学協議会・教授会等の機能権限の明確化 c. 副学長の職務権限の強化と明確化 d. 学部長の職務権限の明確化 e. 専任教員の充実(著名教員の招聘等)	◎渡辺学長 野田常任理事 五十嵐常任理事	総務・人事課 ◎大学改革 推進課		平成27年4月1日施行の「学校教育法の一 部改正」に則った学内規程が運用され、学 長のガバナンスが適正に実施されている。 各会議体の役割分担、学内会議の整理統 合が行われ、意思決定の迅速化が図られ ている。	・平成27年4月1日施行の 学校教育法の一部改正 の趣旨に則った学内 規程の整備を実施。	・新体制での運用開始			
3. 大学の 教育改革	(1)二松学舎への 愛校心(帰属意 識)高揚教育	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時からの教を教授 c. 著名な本学関係者・卒業生の功績等を教授 d. 自校教育等のための共通テキスト導入	◎渡辺学長 山崎副学長 野田常任理事 五十嵐常任理事	教務課		創作活動に対する支援、本学独自の出版 活動等を通じ、関係者の帰属意識が高まっ ている。	・「二松学舎大学文芸賞」 の創設検討 ・『文学散歩』(九州篇) の刊行 ・共通テキストの製作	・創作コンクールの実施 ・『文学散歩』(中部篇) の刊行 ・共通テキストの基礎 ゼミへの導入	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
						目標数値					
3. 大学の 教育改革	(2)学生ニーズへの 対応	a. 学生による授業アンケートの分析、授業改善・ 学校運営へのフィードバック	◎渡辺学長 山崎副学長	大学改革 推進課		授業アンケート、満足度調査等の結果が教育 改革、環境整備に機動的に反映され、 SS値(Student Satisfaction)が高まっている。 授業アンケート等の評価結果がFDに反映 されている。	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映 ・学生満足度調査の分析 と結果による問題点抽出 改善策検討	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映 ・学生満足度調査結果 で抽出した問題点の 改善策検討	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映 ・改善策の反映	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映 ・学生満足度調査の実施	・授業アンケートの実施 ・アンケート結果の反映 と結果による問題点抽出
	(3)国際化への対応										
	①国際化教育・ 留学支援	a. 東アジアほかの大学との連携 b. 留学生の受け入れと送り出し・双方向交流の ための環境整備				日本に根ざした道徳心と「国語力」を基礎と して、英語・中国語・韓国語などの外国語 の实用的スキルを身に付けた学生が、海外 留学や学内での留学生との交流を通じて、 国際的視野と異文化理解力を涵養してい る。 様々な国からの留学生を受け入れ、国際 交流が活発化している。	・海外大学とのダブル ディグリー制度の検討 ・全学的な外国語強化策 の導入・実施 ・地域研究科目による 国際理解の推進 ・学内の留学生受入 体制の整備 ・東アジアの文化と社会 プログラム充実策の検討 ・英語と中国語の外部 試験を用いた到達目標 設定値検討 ・その他	・効果検証、見直し ・学内の留学生受入 体制の整備 ・海外大学とのダブル ディグリー入試制度の 検討 ・東アジアの文化と社会 プログラム充実策の検討 ・語学科目の難易度設定 見直し ・少人数クラスによる語学 教育の実施体制検討 (全学的) ・全学的な語学の能力別 クラス制検討	・効果検証、見直し ・学内の留学生受入 体制整備と更なる充実 ・海外大学とのダブル ディグリー制度導入交渉 開始 ・海外大学とのダブル ディグリー入試制度の 検討 ・東アジアの文化と社会 プログラム充実策の実施 ・全学的な語学の能力別 クラス制導入	・効果検証、見直し ・学内の留学生受入 体制整備と更なる充実 ・海外大学とのダブル ディグリー制度入学 募集開始 ・全学的な語学の能力別 クラス制導入	・効果検証、見直し ・学内の留学生受入 体制整備と更なる充実
	②語学教育	a. 語学教育の少人数化実施 b. 英語・中国語・韓国語等教育の強化	◎渡辺学長 山崎副学長 田端センター長 武永センター長 神河学務局次長	◎教務課 国際交流 センター	国際交流委員 会 教務委員会等						
	③国際人としての 教養教育	a. 日本・中国等東アジアの文学・歴史・文化、 政治・経済等知識の教授 b. 国際環境の変化に対応できる知識・情報等の提供 c. 東洋の精神に基づく道徳心の涵養					H30年度 派遣留学生数:8名				
	(4)キャリア教育・就職対策	a. 入学時からの体系的キャリア教育確立 b. 就職率アップ c. 各種資格取得の奨励、資格取得講座等受講者の増 d. 実践的な知識技能の習得方策の検討 e. 地方公務員試験・国家公務員試験合格者の増 f. 司書・学芸員採用者の増 g. 就職先の開拓・拡大 h. キャリアカウンセラーの増員 i. インターンシップ先の開拓、インターンシップ機会の増	◎渡辺学長 山崎副学長 田端センター長 神河学務局次長	就職支援課	キャリア センター 会議	東アジア文化・語学等を理解した本学の卒 業生が、国内だけでなく世界の各界で活躍 している。 H30年度 就職率(一般企業):95.0% H30年度 公務員試験合格者:23名 H30年度 就職特別講座受講者:240名 H30年度 インターンシップ参加者:80名 H30年度 3年生への就職希望調査(個人 面談率):100%	・公務員就職希望者への 新対策の実施 ・新インターンシップ プログラム実施 ・各施策の効果検証、 見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	(5)教員養成教育の強化	a. 教員採用試験合格者の大幅増 b. 国語・書道・外国語(中国語)教員養成の強化 c. 社会科教員養成への注力 d. 古文や漢文の実力持つ教員養成 e. 新たな教員免許制度に備えた対応 f. 卒業生教員との連携強化	◎渡辺学長 山崎副学長 若井田センター長 神河学務局次長	教職支援 センター		毎年度、一定数の教員採用実績があり、 「専門性の高い教員=二松學舎大学卒教 員」というブランドが構築されている。 H30年度 専任教員採用者数:15名 H30年度 書道教員採用者数:3名 H30年度 中国語教員採用者数:3名 H30年度 社会科教員採用者数:3名 H30年度 教員採用模試平均得点:54点	・学部、大学院、教職課 程、教職支援センター の連携による教育の実施 ・教職支援センターと教職 課程の連携強化策の 実施 ・教科教育充実策の 検討、実施 ・その他	・各施策の効果検証、 見直し ・「教員の会」神奈川県 の会の連携強化 ・「教員の会」茨城県 の会の立ち上げ・組織化 ・「教員の会」埼玉県 の会の立ち上げ準備	・各施策の効果検証、 見直し ・「教員の会」神奈川県 ・茨城県の会との連携 強化 ・「教員の会」埼玉県の 会の立ち上げ・組織化 ・「教員の会」千葉県 ・東京都の会の立ち上げ 準備	・各施策の効果検証、 見直し ・「教員の会」神奈川県 ・埼玉県・茨城県の会 との連携強化 ・「教員の会」1都4県の 会の合同開催準備 ・「教員の会」千葉県・ 東京都の会の立ち上げ ・組織化	・各施策の効果検証、 見直し ・「教員の会」首都圏1都 4県の各会との連携強化 ・「教員の会」1都4県の 会の合同開催準備 ・「本学卒業現職教員の 会」を立ち上げる可能性 のある他県の情報収集・ 会の打ち上げ打診
(6)父母会・卒業生 との連携	a. 父母会との連携強化、意見を学校運営に 反映する仕組み検討 b. 卒業生ネットワーク整備 c. 松令会との連携強化	◎渡辺学長 田端学務局長 神河学務局次長	◎学生支援課 大学改革 推進課		父母会組織が強化され、大学と密接に連 携し、効果的に各種事業を実施している。 松令会との連携が強化され、志願者の増、 学生の就職活動上の支援体制の充実につ びついている。	・開催方法の検証、改善 ・新制度の導入 ・卒業生データ把握方法 の見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・新方式での調査実施	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	
(7)地域との連携、 他大学との交流	a. 千代田区・柏市との連携による地域振興教育の実施 b. 千代田区・柏市以外の地域との連携・ 「まちおこし」の検討 c. 教育研究成果の公表・社会への還元 d. 生涯学習講座の充実、市民の受け入れ e. 他大学との交流活発化	◎渡辺学長 山崎副学長 江藤学部長 菅原学部長 谷口図書館長	総務・人事課 広報課 柏事務課 ◎大学改革 推進課 図書館		本学学生・生徒にとつての「学び舎」として だけではなく、地域社会・地域住民にとつ ての知的拠点として、広く一般に公開され ている学校となっている。 H30年度 柏市民の入館者数:1,720名 H30年度 生涯学習講座受講者増加率及び人 数:H25年度比+12.5%(受講者数50名)	・前年度施策の継続実施 ・大妻女子大学との協定を 実質的交流を図る内容 への検討開始 ・生涯学習広報活動の 充実 ・柏近隣地域の方への 施設利用働き掛け ・柏市との協定による柏市 小中学校教職員研修 制度の開設	・効果検証、見直し ・大妻女子大学との実質 的な学生間の交流に ついて計画策定	・効果検証、見直し ・連携開始	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)										
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画						
						【2020(H32)年度の姿】	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
						目標数値							
4.大学院の 教育改革	(1) 文学研究科の改革	a. 東アジア学術総合研究所との連携、日本漢文学・中国学・国文学の日本における拠点としての地位向上 b. 教員・研究者の輩出	◎渡辺学長 山崎副学長 江藤研究科長 高山研究所長	◎教務課 大学改革 推進課	専攻主任会議 研究科委員会	国内外への研究成果の情報発信を通じて「国漢の二松学舎」の伝統を保ち、専門性の高い国語科教員、研究者が全国で活躍している。	・新カリキュラムの検討 ・前年度施策の効果検証、見直し ・その他	・新カリキュラムの実施 ・若手研究者受入体制の検討 ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し		
		(2) 国際政治経済学 研究科の改革	a. 産学協同の推進 b. 専門的職業人の育成			◎渡辺学長 山崎副学長 菅原研究科長	専攻主任会議 研究科委員会	広い視野と実践的対応力を身に付けた、国際的職業人を多数輩出している。	・新カリキュラムの検討 ・学生募集対策の実施	・新カリキュラムの実施 ・寄付講座受入検討 ・社会人受入の推進 ・効果検証、見直し	・寄付講座受入検討 ・効果検証、見直し	・寄付講座開講 ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
	(3) 教員養成の高度 化に向けた対応	a. 新たな教員免許制度に備えた対応	◎渡辺学長 山崎副学長 江藤研究科長 菅原研究科長	◎教務課 大学改革 推進課	教職課程等 カリキュラム 検討委員会	現職教員の履修に配慮した受け入れ体制や、高度専門職として位置付けられた教員養成に必要な教育課程が整備されている。	・新たな教員養成課程、プログラム等に係る具体案の検討。 ・指導体制の見直し、人材等の確保。	・新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施。	・新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施。	・新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施。	・新教員免許制度の導入に合わせた教育プログラム等の実施。		
	(4) 国際化への対応	a. 東アジア学術総合研究所と連携した 海外大学等との国際交流の推進	◎渡辺学長 山崎副学長 高山所長	大学改革 推進課		海外大学等への本学関係者の派遣、海外研究者等の受け入れが活発に行われ、ダブルディグリー制度等が機能している。	・海外大学等との交流 活性化策の検討、制定。	・国際交流活性化策の一部実施、ダブルディグリー制度導入に向けた学内体制の整備	・国際交流活性化策の一部実施。	・国際交流活性化策の一部実施	・国際交流活性化策の一部実施		
5.学生支援	(1) 総合的 学生 支援策	a. 学生支援業務への全学的な理解の浸透	◎田端学務局長 神河学務局次長	学生支援課		多様な学生に対する共通認識を基盤にして、学修支援や利用しやすい相談窓口、ラウンジ的な機能も担う、学生サービスの一元的担当組織として「学生支援センター」が設立され、教職協働に基づき、学生たちが安心して充実した学生生活を送れるような学生支援が行われている。	・講演会、研修会などによる学生支援についての共通認識醸成	・継続実施	・継続実施	・効果の検証	・効果の検証		
		b. 学生支援センターの開設と運用	◎田端学務局長 神河学務局次長				・基本構想の決定 ・規程整備など、開設に向けた学内準備	・学生支援センターの開設 ・学内連携の強化に向けた取り組み	・効果検証、見直し	・課題の洗い出しと対応策の検討	・課題の洗い出しと対応策の検討		
		c. 学生支援スタッフの育成とピアサポート	◎田端学務局長 神河学務局次長				・ボランティア・スタッフ等からピアサポートスタッフを選定 ・学生委員会を中心に支援システムを検討・構築(マニュアル作成などを含む)	・学生委員会を中心に支援システムを検討・構築(マニュアル作成などを含む)	・支援システムの試験 運用開始 ・学生委員会、および学生スタッフが中心となり、学生支援センターに積極的に参加する。	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し		
		d. 保健室運営の見直し	◎田端学務局長 神河学務局次長				・定期的な開室時間の実施 ・保健室施設の拡充計画の検討(増床など) ・3号館の休養スペース確保	・定期的な開室時間の延長	・終日開室と職員常駐体制の準備 ・保健衛生教育の本格的展開	・終日開室と職員常駐体制の実施	・終日開室と職員常駐体制の実施		
		e. 留学生支援	◎山崎副学長 渡邊理事 武永センター長 神河学務局次長				教務課 学生支援課 ◎国際交流センター	短期・長期留学生の増加、相互の国際的文化交流により、学生達の多角的な学習が進展している。 H30年度 私費外国人留学生数:65名	・新規協定校候補の選定 ・留学生派遣受入派遣体制(学習支援・生活支援)の拡充 ・認定留学制度の導入検討 ・各種語学検定の積極的活用の検討	・新規協定校との協定締結(継続) ・認定留学制度の規程整備 ・留学生派遣受入体制(学習支援・生活支援)の点検、改善 ・各種語学検定の積極的活用の検討	・協定校間の相互交換留学プログラムの試験的展開 ・認定留学制度の施行 ・各種語学検定の積極的活用策の導入	・協定校間の相互留学プログラムの安定化 ・効果の検証、見直し	・協定校間の相互留学プログラムの安定化 ・効果の検証、見直し
		f. 奨学金制度の拡充	◎山崎副学長 野田常任理事				◎学生支援課 企画・財務課	経済的困窮や家計の急変に対する経済的支援が、給付型奨学金を中心に充実しているとともに、特待生、一定の資格獲得者、課外活動等の優秀者への奨学金も創設され、学生たちのインセンティブになっている。	・新奨学金制度の原案決定、規程等整備	・新奨学金制度の一部施行	・新奨学金制度の一部施行 ・効果検証、支給人数等の見直し	・効果検証、支給人数等の見直し	・効果検証、支給人数等の見直し
		g. 課外活動支援 ・全学的なサポート体制の構築 ・顧問制度の見直し ・施設設備の充実	◎田端学務局長 神河学務局次長				学生支援課	九段・柏両キャンパスにおける、施設の充実が図られ、多くの学生がスポーツ・文化系の課外活動に参加している。 H30年度 課外活動加入率:40.0%	・課外活動調査に関する調査結果の分析 ・新支援制度の検討、導入準備 ・九段2号館3F改修案の検討	・九段2号館3F改修案の決定、着工 ・九段・柏両キャンパスの学生施設全体計画の検討 ・新支援制度の検討、導入準備	・九段・柏両キャンパスの学生施設整備計画の決定、一部着工 ・学生の課外活動への支援策の実施	・新支援制度の効果検証 ・学生施設整備計画の一部着工	・新支援制度の効果検証 ・学生施設整備計画の一部着工

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
5.学生支援	(1)総合的 学生 支援策	h. キャリア教育・就職支援	◎渡辺学長 山崎副学長 田端センター長 神河学務局次長	◎教務課 ◎就職支援課	◎教務委員会 キャリア センター 会議	学生が就業力を高められる就職支援体制を確立し、就職希望者の就職率が100%に近づいている。	・基礎学力向上支援の継続実施 ・キャリア教育支援の整備・強化	・他部署(学生支援センター等)との連携強化 ・学生ポートフォリオを活用した就職支援	・継続実施	効果の検証	効果の検証
		①入学時からの体系的キャリア教育					・実戦的講座の増設、資格試験等の学内受験実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
②実践的キャリア教育		・学生が就職先企業分析の継続実施 ・企業開拓と内定状況検証 ・スタッフ増員の検討					・継続実施	・開拓企業への内定状況等検証	・継続実施	・継続実施	
③就職率向上につながる求人開拓		・実業界OB・OGのネットワーク化検討					・実業界OB・OGネットワーク試験実施	・実業界OB・OGネットワーク確立	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	
	④卒業生とのネットワーク強化	◎渡辺学長 山崎副学長 田端センター長 神河学務局次長	◎教務課 ◎就職支援課	◎教務委員会 キャリア センター 会議							
	(2)学生ポータル サイト、学生 ポートフォリオ の活用	a. システムを利用した教員、学生間コミュニケーションの充実 b. 学習履歴、指導履歴の可視化・記録化 c. システムを介した仮想共同学習空間の創設 d. ポータルサイトを利用した情報周知の徹底、利便性の向上	◎吉崎副学長 山崎副学長 田端センター長 五井センター長 神河学務局次長	◎教務課 学生支援課 就職支援課 情報センター	◎ポートフォリオ 導入小委員会	学生ポータルサイトを介した情報提供が円滑になされており、学生ポートフォリオシステムの多様な機能を活用した学生の主体的な学びの体制が構築されている。	・学生への周知、教員対象研修会の開催 ・学生、教員による試験運用開始(後期)	・本稼働 ・学生及び教員への使用支援	・システム運用の検証(前期) ・検証内容を踏まえた改善(後期)	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
6.入学者の 確保、退 学者等の 減少	(1)優秀な学生 の確保・入試 改革	a. アドミッションポリシーに基づく入学試験の実施 b. 推薦入試入学者と一般入試入学者のバランスは正 c. 一般入試成績上位者の確保 d. 実質倍率の向上 e. 大学入試センター試験廃止後に向けた対応 f. 外国人留学生の受け入れ	◎渡辺学長 山崎副学長	◎入試課	◎学生募集 基本方針 検討会議	成績優秀者に対するインセンティブが確立し、これに伴い入学者の試験別比率が、一般入試入学者が過半数を占めるようになっている。 H30年度 一般入試入学者率:42.0% H30年度 志願者数増加率:H25年度比+4%(志願者数 文学部2050名、国際政治経済学部700名)	・ポリシーの公表 ・当該校への周知	・新入試制度導入 ・新制度導入	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・効果検証、見直し
						・成績上位者への奨学制度検討 ・新制度の制度公表	・新制度の導入	・センター試験廃止後の入試制度について検討開始 ・センター試験廃止後の入試制度について検討	・外国人留学生入試方法検討 ・留学生に対する情報収集 ・日本語学校等への広報活動実施	・効果検証、見直し ・継続実施	・センター試験廃止後の入試制度について検討
	(2)退学者等の 減少	a.退学者等の減少	◎田端学務局長 神河学務局次長	◎学生支援課		総合的な学生支援策が奏功し、退学者、除籍者、休学者などが減少している。 H30年度 退学・除籍者数等:40名	・継続的な分析と対応策の検討 ・改善案の策定と実行 ・保護者との連携方法の策定	・効果検証、改善案策定	・効果検証、改善案策定	・効果検証、改善案策定	・効果検証、改善案策定
7.キャンパス 整備	(1)九段での教育研究 環境整備、学生 ホール等の整備	a. 九段地区で新校舎建設 b. 九段キャンパス既存校舎の改修	◎野田常任理事 渡辺学長	◎企画・財務課 総務・人事課	◎理事会 常任理事会 全学政策会議 キャンパス 整備委員会	1号館～4号館の建物群で構成された「都市型キャンパス」として機能している。	・九段4号館竣工(秋) ・九段1～3号館改修 検討、着工	・九段4号館本格稼働 開始 ・別館賃借解消	・利用状況調査、改善	・利用状況調査、改善	・新たなキャンパス整備 計画の策定
		a. 大学九段集約後の利用計画検討 b. 全天候型グラウンドへの改修 c. 生涯学習等で活用	◎野田常任理事 渡辺学長				大学・両附属高校・中学校の連携・協力によって、施設が効率的に活用されている。	・柏キャンパス再利用 計画の策定 ・一部整備・補習の着工	・検証・見直し	・検証・見直し	・検証・見直し
	(3)図書館の整備	a.九段・柏両館の重複資料の整理・一本化 b.省スペースでの効果的な利用方法の検討	◎渡辺学長 谷口図書館長	◎図書課		省スペースで効果的な利用方法を確立し、次世代型の図書館として運営され、利便性が高まっている。	・限られたスペースによる効果的な利用方法と蔵書管理計画策定 ・重複資料の調査・整理	・策定計画に基づいた運営実施	・継続実施	・継続実施	・継続実施
IV. 附属高校の教育改革											
1. 教育改革	(1)附属高の「ビジ ョン」の浸透	a. 附属高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施	◎松葉校長	◎高校事務室	◎主任会議	論語・漢文を通じた全人教育を行うことにより、ビジョンを内外に浸透させる。 H30年度 漢文検定合格者:50名	・漢文検定において、全学年50名の合格を目標とする。	・漢文検定において、全学年50名の合格を目標とする。	・検証・見直し	・制度確立	・制度確立
		a. 精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b. 問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c. 東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	◎松葉校長	◎高校事務室	◎国語科 (論語担当者) 総務部 生活部	「人間(ひと)作り」のための行事等を強化し、生徒の精神力を育む。	・伝統行事、ボランティア活動の調整・試行	・検証・見直し	・検証・見直し	・伝統行事の完成 ・ボランティア活動の定着	・伝統行事の完成 ・ボランティア活動の定着

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
						目標数値						
1. 教育改革	(3) 愛校心の育成	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時の教えを教授 c. 有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授	◎松葉校長 五十嵐常任理事	高校事務室	生活部 校内松友会	学校の教育活動全体を通して仲間意識を醸成し、一体感を育て帰属意識や学校への愛校心が育成されている。	a.ビデオ作成の検討 c コラムを掲載開始。年2回(夏期、冬期)に卒業生を紹介する。 d-1 授業の改善・工夫の実践 d-2 他のクラブ活動を活発にして愛校心を育てる。合宿所の拡大・充実(勉強・クラブ活動合宿に活用)検討 d-3 野球部合宿所の建替え等の実施	・映像を活用した二松学舎理解教育実施 ・コラム継続実施 ・継続実施 d-2 他のクラブ活動を活発にして愛校心を育てる。合宿所を拡大・充実し(勉強・クラブ活動合宿に活用)成果を上げる。 d-3 甲子園出場の実現 d-3 平成30年の創立70周年に向けて甲子園出場3ヵ年計画の再構築	・継続実施 ・3ヵ年計画の1年目	・継続実施 ・3ヵ年計画の2年目	・継続実施 ・3ヵ年計画の2年目	
	(4) 国際化への対応	a. 外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 b. 交換留学制度の検討	◎松葉校長 小町理事	総務・人事課 ◎高校事務室	英語科 教務部	実力テスト等の導入や交換留学制度の確立により、国際化に対応できる人材を育てる。	・外部英語試験導入検討 ・中国語・韓国語検定の導入検討 ・本学教授による講演会実施 ・交換留学制度の検討	・外部英語試験の導入、スコア分析 ・講演会の効果検証、見直し ・交換留学制度施行(予定)	・効果検証、見直し	・各制度の確立	・各制度の確立	
	(5) 地域・社会との連携	a. 保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進	松葉校長	高校事務室	図書部 学校評価委員会	学校評価委員会の活用、町内行事への参加により、地域との連携体制を維持している。	・学校評価委員会、町内行事への教職員生徒の参加を継続実施	・継続実施	・継続実施	・継続実施	・継続実施	
	(6) 教育の実践・充実	a. 学力の向上 b. 難関大学への合格者増 c. 教員の組織的なFD活動実施の検討 d. 教員の教科指導力の向上 e. 大学入試制度改革と連動した教育課程の見直し	◎松葉校長 千葉理事	高校事務室	教務部 進路指導部 教科主任会議	難関大学への合格者を毎年度輩出する。(当面は、GMARCH 30名、日東駒専100名合格を目標とする。)このために、教員の教科指導力を強化するための研修制度が確立されている。 H30年度 特進クラス難関大学(GMARCH)合格率:80.0% H30年度 一般クラス中堅私大(日東駒専)合格率:60.0%	・各種講習の有機的な実施体制の試行、検証 ・研究授業、初任者研修の継続実施、見直し ・主要5科目における弱点抽出と、克服対策検討 ・入試問題研究による効果的な受験指導力養成 ・家庭学習強化 ・対象生徒の中学教育補完講座の受講必須化 ・大学入試制度改革と連動した難関大対策の検討	・本格実施 ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・中学教育補完講座充実 ・大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバス案の検討	・効果検証、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し	・実施方法確立 ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し	・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し ・継続実施、見直し	
	(7) 入学者の確保、退学者等の減少	a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少	松葉校長	高校事務室	入試企画部 入試委員会	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。 H30年度 入学定員充足率:100% H30年度 退学者率0.5%	・前年度施策の検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で行う。 ・各担任による二者面談の強化 ・クラス編成のあり方を検討 ・定期考査、評定改善の実施 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・校長による1年生保護者面談実施	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で行う。 ・各担任による二者面談の強化 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・生徒の満足度向上の対策を検討 ・習熟度別クラス編成の実施	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で行う。 ・各担任による二者面談の強化 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・生徒の満足度向上の対策を検討	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で行う。 ・各担任による二者面談の強化 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・生徒の満足度向上の対策を検討	・検証・見直し ・成績不振者への対策授業を各学年で年間で行う。 ・各担任による二者面談の強化 ・募集の段階から意欲的な生徒の獲得を目指す ・生徒の満足度向上の対策を検討	
	(8) 両附属高校間の連携強化	a. 教育プログラムの共同開発 b. 施設・設備の共同利用 c. その他(人事交流・卒業生組織の連携等)	◎五十嵐常任理事 松葉校長 長谷川校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	附属中学・高校 改革検討会議	両附属高校間の連携による教育プログラムや授業副教材の開発、施設・設備の共同利用等が行われ、教育効果が高まっている。	・柏キャンパス共同利用ルールの策定	・両附属高校で連携した教育プログラムの検討 ・柏キャンパス共同利用ルールの開始 ・人事交流制度の検討 ・卒業生組織の連携検討	・両附属高校で連携した教育プログラムの開発 ・人事交流制度の規程整備 ・卒業生組織の連携検討	・両附属高校で連携した教育プログラムの実施 ・人事交流制度施行 ・卒業生組織の連携策案定	・効果検証、見直し ・継続実施、見直し ・卒業生組織の連携策案定	
	2. 生徒支援	(1) 生徒支援	a. 入学から卒業までの生徒支援体制の整備 b. 父母の会・同窓会との連携強化、意見を学校運営に反映 c. 奨学金制度の充実	松葉校長	高校事務室	主任会議	・特待生制度の拡充等により生徒を支援する。	・規程改正等整備 ・チューター制度拡充準備	・試行 ・父母の会、同窓会支援制度の検討	・効果検証、見直し ・給付奨学生拡充検討 ・父母の会、同窓会支援制度の実施	・制度確立 ・給付奨学生拡充検討	・制度確立 ・給付奨学生拡充検討

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当理事等	推進部課	関係会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
						目標数値					
3. キャンパス整備	(1) 附属高校の施設設備整備	a. 現在地で将来の校舎建替を検討 b. 柏を運動施設として活用	◎野田常任理事 松葉校長	総務・人事課 ◎企画・財務課 ◎高校事務室	体育科 生活部	九段校舎の設備を充実させつつ、柏の体育施設を有効活用している。	・柏での体育集中授業の継続実施、見直し	・継続実施、見直し ・九段校舎設備整備実施	・継続実施、見直し ・柏グラウンドの設備充実策検討	・柏活用体制の確立 ・柏グラウンドの設備充実策検討	・柏活用体制の確立 ・九段校舎の現在地での建替えの可能性・時期等の検討
V. 附属柏中学校・高校の教育改革											
1. 教育改革											
	(1) 附属柏中高の「ビジョン」の浸透	a. 附属柏中高の「ビジョン」の学内外への浸透策の検討・実施 b. ビジョンに基づく生徒育成策の検討・実施	長谷川校長		校長室会議 執行会議 教員会議 広報部会 教務部会	ホームページ、広報用パンフレット、校内研修等が充実し、校内外のステークホルダーに本校のビジョンが浸透している。	・教職員に対する研修の実施 ・ホームページ上、広報用パンフレットへの掲載 ・初任者研修の継続実施	・ホームページ上、広報用パンフレットへの掲載 ・研修内容の検証、改善	・内容の検証、改善 ・継続実施	・内容の検証、改善 ・研修内容の検証、改善	・内容の検証、改善 ・研修内容の検証、改善
	(2) 「人間(ひと)作り」、人格教育	a. 精神的支柱確立・生きる力育成のための『論語』教育実施 b. 問題解決力・困難に前向きに取り組む力育成 c. 東洋の精神に基づき人格を陶冶、豊かな人間性、社会に貢献できる青少年育成	長谷川校長		校長室会議 執行会議 教員会議 教務部会 国語科会議 学年会議 生徒部会	東洋の精神に基づき、相対的な価値観を求める観点から多様な思想を学び、大きな視野にたつて物事を考えられる生徒を輩出している。	・『論語』の教員研修実施 ・中高合同行事の企画、立案	・効果検証、改善 ・合同行事の実施	・継続実施 ・継続実施	・研修内容の検証、改善 ・継続実施	・研修内容の検証、改善 ・継続実施
	(3) 愛校心の育成	a. 二松学舎の歴史・伝統・精神を教授 b. 三島中洲の考え・当時からの教えを教授 c. 有名な本学関係者・卒業生の功績等を教授	◎長谷川校長 五十嵐常任理事		校長室会議 執行会議 教員会議 広報部会 教務部会 中学校会議	今日の国際社会に生きる生徒たちが、世界的な視野にたつた三島中洲師の思想に価値観を見出し、それを受け継ごうとしている。	・前年度施策の継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証
	(4) 国際化への対応	a. 外国語(英語・中国語・韓国語)教育の強化 ・ネイティブ(英語・中国語・韓国語)教員の確保 ・英語圏への短期研修の実施	◎長谷川校長 小町理事	総務・人事課 ◎高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 教務部会	オーストラリア等の英語圏及び中国への研修などが実施され、国際交流が充実している。	・中学生向け中・韓語学補修の検討 ・中3、高1オーストラリア語学研修の実施 ・グローバルコースの検討	・中学生向け中・韓語学補修の実施 ・中学3年特選オーストラリア語学研修実施 ・中学グローバルコース開始	・継続実施 ・継続実施 ・高校グローバルコース開始	・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施
	(5) 地域・社会との連携	a. 保護者・OB・地域住民・地域企業との連携、学校の活性化推進 ・補習授業、夏季勉強会におけるサポーター(卒業生等)の活用	長谷川校長		校長室会議 執行会議 教員会議 生徒部会 教務部会 中学校会議	柏市、地域住民、企業などとの新しい連携、交流が深まり、地域における存在感が増している。	・夏季勉強会への現役大学生の参加実施 ・近隣等の清掃活動継続実施	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施
	(6) 教育の実践・充実	a. 学力の向上 ・学年、教科間での情報の共有と連携の強化 ・教員研修の実施 ・中高一貫カリキュラムの検証、確認 b. 難関大学への合格者増 ・中高におけるFD推進による教科指導力の強化 c. 大学入試制度改革と連動した教育課程の見直し	◎長谷川校長 千葉理事		校長室会議 執行会議 教員会議 進路部会 教務部会 中学校会議 高等学校会議 学年会議 各教科会議	スーパー特選クラス、特選クラスをはじめとして、進学校としてより充実した教育が実践されている。教員の質が更に向上し、実践的な授業が展開されている。具体的には、スーパー特選は難関国公立大学(特に理系)及び私立大学への現役合格率50%、特選は難関私立大学への現役合格率100%という目標に近づいてきている。 H30年度 国公立、早慶上理、GMARCH合格者数:70名	・中学特選、高校S特選の効果検証、継続実施 ・新体制の構築 ・語学力の強化、充実に向けた指導法の実施 ・高校スタディサポート実施 ・難関大学問題研究会の効果検証 ・FD実施案、特定教科の強化充実策について継続実施 ・センター試験得点力向上実施策の実施 ・大学入試制度改革と連動した難関大対策の検討	・継続実施 ・実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・効果検証 ・効果検証、継続実施 ・継続実施 ・効果検証、継続実施 ・大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバス案の検討	・S特、特選カリキュラムの検証 ・効果検証 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・効果検証 ・効果検証、継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・大学入試制度改革と連動したカリキュラム・シラバスの策定	・継続実施 ・実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・効果検証 ・効果検証、継続実施 ・継続実施 ・効果検証、継続実施 ・効果検証、継続実施 ・効果検証、継続実施	・継続実施 ・実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・効果検証 ・効果検証、継続実施 ・継続実施 ・効果検証、継続実施 ・効果検証、継続実施
	(7) 入学者の確保、退学者等の減少	a. 生徒募集力の強化 b. 退学者等の減少 c. 附属柏中学の生徒募集力強化	長谷川校長		校長室会議 執行会議等	進学実績の向上により生徒募集力が高まっている。また、在学中の生徒満足度も向上し、退学者数が減少している。	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・ベネッセスタディーサポート、ファインシステムの継続、効果検証、改善	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善	・高校に臨時定員増の要請があれば40名増に応じる ・教室確保と配置の検討 ・継続、効果検証、改善
	(8) 規模拡大	a. 附属柏高校の規模拡大 ・臨時定員増を活用した規模拡大 b. 附属柏中学で入試難易度を下げずに規模拡大 ・進路実績の向上	長谷川校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 中学校会議 高等学校会議	中学校において定員充足率が100%を超え、徐々に拡大している。 H30年度 高校定員充足率:116.0% H30年度 中学校定員充足率:100.0%	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証	・継続実施、検証

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
1. 教育改革	(9) 両附属高校間の連携強化	a. 教育プログラムの共同開発 b. 施設・設備の共同利用 c. その他(人事交流・卒業生組織の連携等)	◎五十嵐常任理事 松葉校長 長谷川校長	総務・人事課 企画・財務課 ◎高校事務室	附属中学・高校 改革検討会議	両附属高校間の連携による教育プログラム や授業副教材の開発、施設・設備の共同 利用等が行われ、教育効果が高まっている。	・柏キャンパス共同利用 ルールの策定	・両附属高校で連携した 教育プログラムの検討 ・柏キャンパス共同利用 ルールに基づいた 利用の開始 ・人事交流制度の検討 ・卒業生組織の連携検討	・両附属高校で連携した 教育プログラムの開発 ・卒業生組織の連携案策定	・両附属高校で連携した 教育プログラムの実施 ・卒業生組織の連携案策定	・効果検証、見直し ・継続実施、見直し ・卒業生組織の連携策実施	
2. 生徒支援	(1) 生徒支援	a. 入学から卒業までの生徒支援体制の整備 b. 父母の会・同窓会との連携強化、意見を学校運営に反映 c. 奨学金制度の充実	長谷川校長	高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議 教務部会 総務部会	教職員、父母、卒業生などの協力体制の 下で、6年間(3年間)を通じて生徒の進路 実現に向けたサポートが体系的に実施され ている。	・父母との協議機会増加 策の継続実施 ・学校評価委員会充実策 の継続実施 ・特待生制度拡充策を 継続して検討	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・拡充策の取り纏め	・継続実施 ・規程整備	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・施行	・効果検証、見直し ・効果検証、見直し ・施行	
3. キャンパス 整備	(1) 附属柏中高の 施設設備整備	a. 自然環境を生かした整備	◎野田常任理事 長谷川校長	◎企画・財務課 高校事務室	校長室会議 執行会議 教員会議等	ピオトープなどの設置が進み、より充実した 教育環境が整備されている。	・学内調整等 ・敷地内樹木の名札 設置の継続実施 ・自然観察の継続実施	・具体案の策定	・設置 ・継続実施 ・継続実施	・効果検証 ・継続実施 ・継続実施	・効果検証 ・継続実施 ・継続実施	
VI. 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他												
1. 長期ビジョ ンの推進	(1) N'2020Planの 推進とそのため の情報の共有化	a. N'2020Planを学生生徒・父母・OB・教職員 等へ伝授、共有化	◎野田常任理事 五十嵐常任理事	広報課 ◎企画・財務課	アクシ ョン プラン 推進管理 委員会	長期ビジョンの精神が学内外関係者に理解・ 共有され、諸改革への積極的な支援・ 協力体制が整っている。	・ステークホルダーへの 情報提供について 適宜検証・見直し	・適宜検証・見直し	・適宜検証・見直し	・適宜検証・見直し	・適宜検証・見直し	
2. 財務	(1) 学生生徒等 納付金の増収	a. 戦略的授業料体系の検討	◎野田常任理事 渡辺学長 山崎副学長 松葉校長 長谷川校長	◎企画・財務課 ◎大学改革 推進課	理事会 常任理事会 全学政策会議 教授会等	都市型大学として、多様化する学生ニーズ に即応できるための財政基盤が築かれて いる。 H30年度 学納金増収額:156,000千円	・保護者に対する学納金 支出内訳の明示を検討 ・両附属高校の学費改定 ・大学の学費改定の検討	・両附属高校の学費改定 ・大学の学費改定実施	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	
		b. 学生確保のための奨学金支給拡充	◎野田常任理事 渡辺学長 山崎副学長 松葉校長 長谷川校長		理事会 常任理事会 予算編成会議 全学政策会議 教授会等	給付型奨学金支給人数拡充に向け、計画的 な基金の積み増しが行われている。 H30年度 第3号基本金積増額:300,000千円 H30年度 奨学金受給者数:51名 H30年度 奨学金支出額:54,038千円	・奨学金支給増に向けた 規程等整備 ・奨学金支給人数の一部 拡充開始 ・第3号基本金の計画的 積み増し着手	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	
	(2) 他の収入の恒常化	a. 競争的補助金の積極的確保	◎野田常任理事 渡辺学長 山崎副学長	◎企画・財務課 ◎大学改革 推進課	全学政策会議 部局長会議	科研費等の申請が増加し、専任教員の4割 が公的資金を活用している。経常費等補助 金(特別補助)については、獲得目標件数 を定め、獲得率80%を目標とする。	・科研費申請等への 奨励制度検討 ・特別補助受給目標 80%達成	・科研費申請等への 奨励制度実施 ・特別補助受給目標 100%達成	・継続実施 ・新受給目標の設定	・継続実施 ・新受給目標80%達成	・継続実施 ・新受給目標80%達成	
		b. 寄付金の戦略的な確保	野田常任理事	◎企画・財務課 総務・人事課	教育研究振興 資金管理運営 委員会	ステークホルダー毎に内容を変更した寄付 募集案内等を送付し、寄付者の寄付意欲 向上に繋がる募集活動を展開。寄付率(寄 付件数/DM発送件数)10%を目標とする。 H30年度 寄付率(寄付件数/DM発送件 数):8.0% H30年度 寄付金額:80,000千円	・領収書発行業務のアウト ソーシング導入 ・カテゴリー別募集案内 導入の検討 ・インターネット寄付金 サイトの見直し	・創立140周年記念募 金募集準備 ・寄付率3%の達成 ・カテゴリー別募集案内 の導入	・創立140周年記念募 金募集開始 ・寄付率5%達成	・創立140周年記念募 金募集 ・寄付率6%達成	・創立140周年記念募 金募集 ・寄付率6%達成	

N'2020Plan の課題			アクションプラン (H30年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
2. 財務	(2) 他の収入の恒常化	c. 二松学舎サービス(株)の業容拡充・収益向上	◎野田常任理事	◎総務・人事課 ◎二松学舎 サービス	全学政策会議、二松学舎サービス連絡会議(仮称)、二松学舎サービス取締役会	二松学舎の関係者から、より喜んで貰い、より役に立つ、信用力のある会社であるとの評価が定着している。	・新規事業に順次着手	・順次着手	・順次着手	・順次着手	・順次着手
						二松学舎外部からの売上があり、地域や教育研究関係に貢献する会社となっている。	・他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク構築・維持 ・施設貸出営業の強化策実施	・他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク維持・強化 ・他大学出資事業会社との共同連携事業着手	・他大学出資事業会社との情報交換、ネットワーク発展・強化 ・他大学出資事業会社との共同連携事業発展	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
						収益を継続的に確保する安定した会社運営がなされている。					
						平成24年9月決算比:売上高は2.5倍(約8億円)、利益は2倍(売上総利益約1億円)となっている。	・経営5カ年計画順次実施	・継続実施	・5カ年計画の検証、見直しに着手	・5カ年計画の総括	
						H30年度 売上高:630百万円 H30年度 売上総利益:84百万円					
(3) 人件費比率の抑制	a. 人件費比率の適正化	◎野田常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎教務課	予算編成会議	法人全体で退職金を除く人件費比率が50%程度で推移しており、特に大学非常勤教員数がH27年度より3割程度削減されている。	・適正な開講科目数の検討 ・教員の担当コマ数の見直し	・カリキュラム改正による、非常勤教員の削減	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	
(4) 経営の合理化 進展、効率的な 財政運営、健全 な財務体質の 維持	a. コスト意識の浸透、経費管理の徹底・無駄の排除、経営の合理化	◎野田常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎柏事務課	経理課 予算編成会議	部署別予算制度導入による事業計画と経費管理が実現している。	・各部署への説明実施 ・部署別予算導入					
					経費削減の精神が学内構成員に浸透し、無駄のない職場になっている。	・実施した経費削減策の検証、継続実施	・検証、継続実施	・検証、継続実施	・検証、継続実施	・検証、継続実施	
3. 教職員の 育成	(1) 教職員人材の育成	a. 「教職協働」の考え方定着化	◎五十嵐常任理事 小町理事	◎総務・人事課	全学政策会議 部局長会議 相互会代表者 会議	課題解決に向け、教員と職員が議論する環境が整い、それぞれの立場を尊重し目標実現に向け前進する風土が確立している。	・前年度施策の継続実施	・継続実施	・効果検証、見直し	・継続実施	・継続実施
					自己点検評価 運営委員会	FD活動が定着し、実質的に機能している。	・FDの実施内容検討・提案 ・組織的FDの一部実施 ・授業アンケート結果の有効活用法検討	・FD活動内容の再検討 ・一部実施 ・授業アンケート結果の有効活用による授業改善	・一部実施	・一部実施	・一部実施
					部課長会議	計画的なSDが実施され、職員個々の事務処理能力が向上し、業務効率がアップしている。全体的に企画立案能力が向上し、業務改善・改革が進んでいる。	・研修規程整備 ・研修費補助制度・褒賞制度の検討(年度最優秀事務職員表彰制度の導入) ・制度に基づいた研修実施 ・SD委員会の立ち上げ	・順次着手	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し	・効果検証、見直し
4. 人事・評価制度、 能力開発・ 研修制度	(1) 教職員の定員管理	a. 教職員の定員管理	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 小町理事	◎総務・人事課 ◎大学改革 推進課	人事計画 検討会議	定年退職者の補充、新規採用にあたっては年齢構成を考慮し、計画的に採用されている。	・採用計画により採用 ・人事計画の推進	・人事計画の推進	・人事計画の推進	・人事計画の推進	・人事計画の推進
		b. 年齢構成の適正化による平均年齢の上昇抑制									
	(2) 教職員の積極性を引き出す評価制度	a. 評価制度の見直し	◎小町理事 野田常任理事 五十嵐常任理事	◎総務・人事課	人事制度 検討委員会	現行の評価制度が見直され、良好な状態で機能している。	・評価基準等策定 ・評価規程改正	・新評価制度で評価実施(評価者研修)	・検証、見直し	・検証、見直し	・検証、見直し

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)								
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画				
						【2020(H32)年度の姿】	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
						目標数値					
4. 人事・評価制度、能力開発・研修制度	(3) 働き甲斐ある職場の実現	a. 給与制度改革				給与制度改革や各種の施策が効果を奏し、待遇改善が図られている。	・俸給表改正の一部実施 ・非常勤講師手当改正 ・実施	・諸手当改正実施			
		b. 福利厚生充実	◎小町理事 五十嵐常任理事	総務・人事課	人事制度 検討委員会	教職員のモチベーションを高めるため、福利厚生の充実が図られている。	・休職復帰ルール作成、 実施 ・ヘルスサポートの実施・ 見直し ・職員面談継続実施 ・新報奨制度実施 ・その他福利厚生検討	・継続実施・見直し ・その他福利厚生検討	・継続実施・見直し ・その他福利厚生検討	・継続実施・見直し ・その他福利厚生検討	・継続実施・見直し ・その他福利厚生検討
		c. 報奨制度の検討				永年勤続表彰の他、新たな報奨制度を実施する。	・新報奨制度実施				
5. 組織・権限	(1) ガバナンスの強化	a. 理事会機能の強化	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 野田常任理事	総務・人事課	理事会	理事会は、学内外情勢を把握し、学内の意見を反映し、担当理事制が十分に機能。長期ビジョン達成に向けた確な決定を行い、理事会意思を学内へ示す経営体制になっている。	・各担当理事の機能を 強化・充実	・各担当理事の機能を 強化・充実	・各担当理事の機能を 強化・充実	・各担当理事の機能を 強化・充実	・各担当理事の機能を 強化・充実
		b. 教学ガバナンスの強化	◎渡辺学長 五十嵐常任理事	◎総務・人事課 ◎大学改革 推進課		理事会機能強化のため、学長をトップとする教学関係理事が担当分野について、十分に理事機能を発揮している。					
	(2) 意思決定の迅速化	a. 意思決定の迅速化	◎五十嵐常任理事 渡辺学長 山崎副学長 小町理事	総務・人事課	全学政策会議	権限と責任の委譲が適正に行われており、意志決定の迅速化が図られている。	・全学政策会議の規程化 の検討・実施				
		b. 権限の明確化	◎渡辺学長 山崎副学長	大学改革 推進課	大学協議会 部局長会議 教授会	平成27年4月1日施行の「学校教育法の一部改正」に伴った学内規程が運用され、学長のガバナンスが適正に実施されている。各会議体の役割分担、学内会議の整理統合が行われ、意思決定の迅速化が図られている。	・平成27年4月1日施行の 学校教育法の一部改正 の趣旨に則った学内 規程の整備を実施。	・新体制での運用開始			
		c. 大学事務組織の一元化	小町理事	総務・人事課		事務組織が再編され、教育研究支援に有効に機能している。	・規程整備等を行い、新組 織に段階的に移行する。				
		d. 業務の抜本的見直し	小町理事	総務・人事課	部課長会議	業務を分析・整理したマニュアルに基づき、効率的に業務処理が行われている。	・アンケート分析 ・重複業務整理 ・業務上の問題点抽出	・マニュアル作成	・効率的な組織の構築に 反映	・継続実施、見直し	・継続実施、見直し
6. 広報	(1) 戦略的広報体制の確立・展開	a. 本学のブランド構築・向上、認知度向上	◎小町理事 野田常任理事		広報課	広報運営 委員会	時代に即した適切な広報が展開され、ブランド・イメージ、認知度が向上している。	・定期的な調査による広報 活動の効果測定と、より 戦略的、効果的な広報 活動の展開	・140周年広報計画の 企画・立案。	・140周年広報の実施。	
		b. 学内情報の集約化体制整備	◎小町理事 野田常任理事				学内情報が速やかに広報担当部署に集まる体制が整っている。	・学内情報の集約化体制 の確立			
		c. 学内情報の学外への効果的な発信	◎小町理事 野田常任理事		広報課	広報運営 委員会	法人・大学・附属校による、学校法人として統一感のある広報活動が展開されている。	・統一感のある広報展開 ・Facebook のオフィシャル ページによる情報 発信の実施 ・学生を活用した広報 の実施			
		d. 広報運営委員会の在り方等再検討	小町理事				新たな広報戦略会議による、戦略的、効果的な広報が展開されている。	・新たな広報戦略会議に よる戦略的、効果的な 広報活動の検討・実施。			

N'2020Plan の 課題			アクションプラン (H30年度まで)									
大分類	中分類	小分類	担当 理事等	推進 部課	関係 会議等	最終目標	5カ年の年次推進計画					
						【2020(H32)年度の姿】 目標数値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	(2) 情報公開	a. 経営情報・教育情報の積極的公開	◎小町理事 野田常任理事			HPの「情報公開」ページを通じた情報提供を積極的に行う。外部理事・評議員等を構成員としたモニター制度を整備し、提言をHPの改訂に生かす。	・モニター制度の実施					
7. その他	(1) 外部評価機関の活用	a. R&Iの格付取得の継続、格付結果の教育・経営への活用	野田常任理事	企画・財務課	全学政策会議	財務体質の改善、規模拡大等を通じて格付評価を「A」に向上させる。 H30年度 格付評価:「A」(ポジティブ)	・効果測定、格付け見直し実施	・効果測定、格付け見直し実施	・効果測定、格付け見直し実施	・効果測定、格付け見直し実施	・効果測定、格付け見直し実施	・効果測定、格付け見直し実施
		b. 大学基準協会、その他認証評価結果の活用	◎山崎副学長 吉崎理事	大学改革 推進課	部局長会議 自己点検評価 運営委員会	認証評価結果を活用して教育研究体制の改善がなされている。	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善 ・報告書の提出	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善	・認証評価での課題改善
	(2) 施設の適切な管理	a. 校舎等の長寿命化、長期修繕計画の策定	◎野田常任理事 小町理事	◎総務・人事課 ◎企画・財務課	キャンパス 整備委員会	各校舎の長期修繕計画が策定され、それに基づいた修繕が行われ良好に管理されている。	・現況調査の継続実施 ・長期修繕計画策定 (建物診断⇒修繕項目 リスト、概略費用算定) ・予算計上	・現況調査の継続実施 ・長期修繕計画による 修繕実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施
	(3) 危機管理と 防災対策	a. 危機管理と防災対策	◎小町理事	総務・人事課	防災対策会議	大震災等に対する防災対策が整備され、教職員・学生・生徒にとって安全な教育環境が整備されている。	・危機管理対策の強化	・危機管理対策の強化	・検証・見直し	・検証・見直し	・検証・見直し	・検証・見直し
	(4) 学校法人全体の 規模拡大	a. 系列校等の拡充 b. 小学校の設置検討	◎渡辺学長	◎大学改革 推進課 ◎企画・財務課		新学部・学科の結論等を見ながら、設置の是非について適宜検討						